

第 79 回文化祭

オーリウェスト

Auriwest

【テーマに込めた思い】

ラテン語で「金(原子番号 79)」、または「光るもの」を意味し、元素記号の語源となった aurum と、西高を意味する west を組み合わせた造語です。各クラスの特徴や、各々の個性が、金のように大切にされ、光り輝く文化祭を創ろうという願いが込められています。また、金は錆びにくく価値が高くあり続けることから、永遠に心に刻まれる文化祭になるように、という願いも込められています。

目次

Part1 文化祭の概要
プログラム内容

Part2 準備について

Part3 1 日目オープニング
スピーチコンテスト
文化部展示
有志展示
学年展示
ミニフェスティバル
スタンプラリー

Part4 オープニングプロジェクト
学年劇
文化祭における生徒会執行部の動き
最後に

文化祭の概要

姫路西高校の文化祭は2日間に分けて開催されます。

【1日目 於：姫路西高校】2026年4月16日(木)

開会式・オープニング・スピーチコンテスト本選・文化部展示・学年展示(新2年)・有志展示・ミニフェスティバル・スタンプラリー・図書館解放・PTA 喫茶

【2日目 於：アクリエひめじ】2026年4月17日(金)

オープニングプロジェクト・文化部ステージ・学年劇・幕間仕事人・応援団・エンディング

姫路西高校文化祭では毎年、テーマ・ロゴデザイン・Tシャツを作っています。

【テーマ】

Auriwest(オーリウエスト)

庶務 福本悠来さん考案 (由来は表紙に記載しています)

【ロゴデザイン】 79 回生上田桜太さん制作

今回の文化祭テーマ「Auriwest」が表す、西高の輝き、優雅さを表現しました。さらに、西高生は粋なんかに収まらず活発に、パワフルに文化祭に取り組んでほしいという願いも込めました。美しい女性の横顔は一体誰を指しているのかは、個々のご想像にお任せします！

(上田桜太さんより)



【Tシャツ】

文化祭Tシャツは、生徒会執行部とその他の役職でロゴの色が異なり、希望すればだれでも購入することができます。今年は79回生の学年カラーである赤色のTシャツで、生徒会役員は金色のロゴ、一般生徒は白色のロゴプリントでした。



プログラム内容

1. 開会式(1日目)

文化祭1日目は吹奏楽部によるファンファーレから始まります。その後生徒会執行部の担当役員が作成したオープニング映像が流れ、開会式がスタートします。「Auriwest」というテーマをもとに作成された映像が終了し、スクリーンが上がりロゴが登場すると会場全体が拍手に包まれました。オープニング映像を観た後は教頭先生による開会宣言、学校長挨拶、全校委員長挨拶、文化委員長テーマ説明が行われました。



2. 図書館解放(1日目)

姫路西高校の図書館は、兵庫県内でトップクラスの蔵書数を誇っており、様々なジャンルの本が所蔵しと並んでいます。そんな図書館を自由に見学していただけるように、文化祭1日目限定で開放しました。

3. PTA 喫茶

PTAの方が運営を行われ、コーヒー等のドリンクと、ケーキ・和菓子などが提供されました。毎年、生徒、保護者の方々にとっての憩いの場となっています。

4. 総合司会(2日目)

文化祭2日目の進行を務めます。各団体が緞帳の裏で準備を進めている間、漫才やコント、質問コーナーなどで会場の雰囲気を和ませつつ進行を円滑に進めます。



5. 幕間仕事人(2日目)

ステージの間を取り持つ係です。幕間仕事人は「準備について」にあるように、オーディションで選ばれたグループが担当します。今年は「思い出ノクターン」「セブンオクロックブリッジ」という2組のコンビが見事選ばれました。春休み中にもたくさん練習し、漫才で会場を大きな笑い声であふれさせてくださいました。



6. 応援団(2日目)

お昼休憩が終わって最初に発表する団体は応援団です。東西体育大会と同様、応援と演舞、そして3・3・7拍子を披露します。79回生応援団が応援する最後の機会だったこともあり、熱のこもった演技で会場を圧倒しました。



7. 文化部ステージ(2日目)

ステージで発表を行うのは「バトントワリング部」、「室内合奏部(吹奏楽部との合同オーケストラあり)」、「音楽部」、「箏曲部」、「ギター・マンドリン部」、「吹奏楽部」の計6部活動です。どの部活動もそれぞれの個性を発揮したすばらしいステージとなっており、とても見ごたえのあるものばかりでした。また、なかには文化祭でのステージを最後に3年生が引退する部活動もあり、その熱量や3年間の努力の結晶を感じられる貴重な時間でした。



8. エンディング(2日目)

吹奏楽部の演奏が終了した後、2日間をまとめたエンディング映像を流します。そして、エンディング映像が流れ終わった後、文化委員長が緞帳の前で挨拶をします。文化委員長の挨拶の後、ゆずの「栄光の架け橋」を会場全員で歌います。劇団関係者、総合司会、幕間仕事人、生徒会役員はステージ上で、それ以外の生徒は客席で隣の人と肩を組んで歌いました。ステージから見た、全校生徒が全員で声を合わせて熱唱している様子は本当に美しく、一生の思い出に残る景色をステージから見ることができました。



準備について

大まかな準備の過程をご紹介します。

大まかな時期	準備内容
10 月下旬	生徒会執行部内で役割を決定します。
11 月	【テーマ・ロゴデザイン決定、各役職募集】 第 79 回文化祭では、テーマは生徒会執行部内から、ロゴデザインは 79、80 回生から募りました。
12 月下旬	【劇団シナリオ会】 各劇団の団長、副団長、シナリオライターでシナリオ会を行います。この時期のシナリオ会では、登場人物の設定や大まかなストーリーの内容を話し合います。シナリオ会は 2 月くらいまで複数回行われます。 【オープニングプロジェクト発足】 オープニングプロジェクトチームに応募した新 3 年生の中から団長、シナリオライターを選出し、制作やシナリオなどの役割分担を行います。新 2 年生もオープニングプロジェクトチームに応募することができますが、募集期間は 1 月上旬～1 月中旬になっています。
1 月中旬～	【各役職のオーディション】 ミニフェス、劇団、総合司会、幕間仕事人のオーディションを行います。審査基準に達する応募者がいなかった場合は二次予選を行うなど、妥協することなく選考します。
1 月下旬	【T シャツデザイン決定】 T シャツのカラーやデザインを決定します。例年、新 3 年生の学年カラーで T シャツを作っています。 【スピーチコンテスト 1 次予選】 各クラスでスピーチコンテストの 1 次予選が行われます。1 次予選ではクラスメイト全員が 1 人 2 分ずつスピーチを行い、クラス内の投票で 2 次予選出場者を選出します。また、各クラスから 1 名が 2 次予選に立候補することもできます。
2 月上旬	【スピーチコンテスト 2 次予選】 各クラスから選出された弁士による 2 次予選が行われます。先生と生徒会執行部の担当者の審査によって本選出場者を決定します。

2月中旬	【学年展示内容決定】 新2年生(80回生)がクラスごとに行う学年展示では、各クラスの個性が光った展示が毎年披露されます。ここで展示のコンセプトや大枠を決定します。コロナ渦が明けた第77回からはどのクラスも体験型の展示内容でした。展示内容の世界観を表現するため、レイアウトや装飾に工夫を凝らし、教室は非日常的な雰囲気になりました。
3月上旬	【Qシート提出】 2日目のステージに出演する団体は、演出の内容をアクリエひめじのスタッフの方と共有するため、Qシートという照明や音響のタイミングが書かれている資料を作成する必要があります。打ち合わせ前に一度この時期に提出し、ミスがないよう丁寧に確認します。 【プログラム作成】 プログラムは、全校生徒や保護者の方々に配布する各団体の紹介文も入ったものです。業者の方と何度も打ち合わせを重ね制作していきます。プログラムの制作担当は生徒会執行部です。
3月中旬	【クラス写真撮影】 文化祭2日目のエンディング映像で使用するクラス写真を撮影します。 【スピーチコンテスト外部指導】 スピーチコンテスト本選出場者を対象に外部講師による指導が行われます。発声方法やマイクの正しい位置など、細かいところまでご指導していただくことができます。
3月下旬	【要項作成】 要項自体は12月あたりから作っていますが、完成するのはこれくらいの時期です。文化祭は要項をもとに動くので、とても大事な要素となっています。要項の制作担当は生徒会執行部です。 【各役職制作・練習開始】 学年末考査が終わり春休みに入ったら、各団体、本格的な準備がスタートします。学年劇ではキャストの練習(数回の外部指導含む)や大道具・小道具・衣装の制作を、オープニングプロジェクト(2日目のオープニング制作チーム)は映像やモニュメントの制作を、展示を行う団体は展示物の制作など、それぞれの担当する場所の準備を行います。

3 月下旬	【学年展示準備開始】 撮影などの準備ができるのは春休みに入ってからです。1 年前、入学した頃の見た学年展示のクオリティにあこがれて制作に力を入れる生徒も多いです。各クラスの文化委員を中心に制作をしていきます。映像作品では脚本から撮影、編集までを全て自分たちで進めていきます。 【アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(1 回目)】 アクリエひめじ大ホール舞台袖で、スタッフの方々と各団体の担当者が事前に作成していた Q シートをもとに打ち合わせをします。スタッフの方々がアドバイスをくださったり、私たちのイメージを直接お伝えしたりできる機会になっています。
4 月上旬	【2 日目プログラムリハーサル】 体育館に実際の舞台の大きさのステージを作り、文化祭 2 日目のプログラムのリハーサルを行います。舞台の配置や、時間内に収められているか、Q シートの内容に無理がないかなどの細かいところを関係者全員で確認します。 【打ち合わせ(2 回目)】 この打ち合わせで、ステージの演出が決定します。
4 月 16 日 (文化祭 1 日目)	【2 日目準備】 1 日目は校内で開催されますが、2 日目の仕込みや大道具・楽器等の運搬を行うため、2 日目ステージ出演者はアクリエひめじに準備に行きます。仕込みの内容は、実際に演技をしたり、照明や音響の確認をしたり、立ち位置にバミリをするなどです。仕込みが時間通り円滑に行われるようにアクリエひめじのスタッフの方々と生徒会執行部の担当者がサポートをします。

1 日目オープニング

1 日目オープニングは文化祭 1 日目に体育館で流す動画のことで、全校生徒に文化祭の開幕を伝える重要なものです。そのため、文化祭には欠かすことのできない存在です。

～動画制作について～

オープニング制作は、劇団の練習や、学年展示の準備、スピコン予選、ミニフェス予選など、様々な現場に行ってその様子を撮影するところから始まりました。その後、定例会でオープニングに使う曲を決め、実際に制作が始まりました。しかし、どのような映像を作ればよいのか全く想像できず、また、動画編集の知識がまったくなかったので、自分の作ろうと思ったものをなかなか形にできず、苦労しましたが、過去の文化祭のオープニングを参考にしたり、たくさんの方にアドバイスをいただいたりして、少しずつ制作することができました。

昨年の生徒会役員が行っていたコマ送りでメンバーが一人ずつ出てくる、という演出を今年も使うことにして、アクリエひめじのモニュメントの前で撮影しました。その後、「第 79 回文化祭」と書いた画用紙を持って生徒会役員全員の写真を撮りました。

映像の最後には、ロゴの一部に夜空があることから、夜空から、ロゴが少しずつ大きくなっていくという様子を作成しました。文化祭前日に、体育館でこの部分で、スクリーンが上がり、タイミングよく後ろのロゴが出てくる、というところを入念に確認しました。

文化祭本番では、少しミスもありましたが、うまく流すことができました。動画が終わった時の大きな拍手は、とても感動しました。

最後に、撮影に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。自分ひとりだけではできないものでした。良い経験になりました。ありがとうございました。



スピーチコンテスト

生徒会執行部でスピーチコンテストを担当しました神代煌太です。文化祭の開幕を告げる代名詞ともいえるスピーチコンテスト。弁士の皆さんは文化祭の約3か月前から2度の予選を勝ち進み、緊張の面持ちながらも晴れて本選の舞台に立っていました。弁士の方たちが何度も練習を重ねて仕上げてきたすばらしいスピーチに、観客は時に笑い、時に圧倒されたことでしょう。どの弁士も自身の体験や自分の好きなことなどについて、ユーモアも交えつつ、それでも自分のスピーチを通じて伝えたいことをしっかり述べるすばらしいスピーチでした。

代々引き継がれてきたこのスピーチコンテストは、今もなお進化を続けています。来年は果たしてどんなスピーチコンテストが行われるのでしょうか。ぜひご期待ください。



文化部展示

今年の文化祭も計14の文化部が日々の活動の成果を展示しました。試行錯誤して制作した作品を展示したり、お菓子の販売をしたり、実際に活動の一部を体験してもらったりしました。近畿大会、全国大会に駒を進めるような実力ある部も多く、1年生の皆さんに「この部活に入りたい」と思ってもらえる良いきっかけになったと思います。また、展示と並行してスタンプラリーを行い、スタンプを集めた生徒の中から先着で今年度の文化祭ロゴの入った葉が贈られました。



有志展示

文化祭の新企画として、有志展示を行いました。従来の展示は文化部によるものが中心でしたが、西高生が自分を表現できる場を増やしたいという思いから、有志展示を企画しました。展示内容の制限を少なくすることで、生徒個人の趣味や特技を生かした個性豊かな展示を行うことができました。当日は計13点の展示が並び、西高生をはじめとする多くの来場者の皆さんを楽しませてくれました。



スタンプラリー

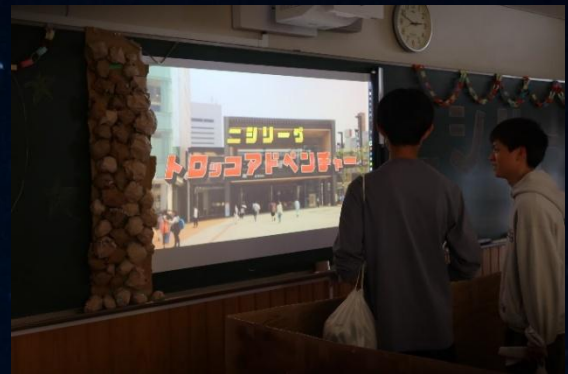
文化祭1日目に毎年恒例で行われるスタンプラリーを今年も行いました。「校舎のいろんな場所に足を運んでもらう」というコンセプトのもと、学年展示、文化部展示、そして今年新たに実施された有志展示にスタンプを設置してもらいました。当日は保護者向けに用意していたスタンプ用紙が全てなくなるほど人気でした。

また、この画像は今年のスタンプラリーの景品である、今年のロゴの「Auriwest」をモチーフとした短冊型のしおりです。こちらも景品交換の際に長蛇の列ができ、作っていた分があっという間になくなるほど大好評でした。



学年展示

文化祭1日目、2年生は旧クラスでの展示を行いました。1組は脱出ゲーム「英雄(AU)を目指せ! Nission impossible」、2組は展示「〇〇展」、3組は体験型授業参観「ドキドキ!? 授業参観」、4組はミニゲーム「WESTIVAL」、5組はミニゲーム「ニシリーグ〜西高にこの問題解けんやついねえよなあ!?〜」、6組はミニゲーム「今日、賭けに来ました。〜姫路西高編〜」、7組は脱出ゲーム「7番出口」をしました。スピーチコンテストが終了後、各クラスのCMを流しました。どのクラスも個性が輝く素晴らしい展示でした。12月頃から動き出し、春休みから本格的に準備をはじめ、春休み期間はどのクラスも毎日展示の準備をしていました。伝達ミスなどいくつか反省はありますが、先生方や80回生の皆さんのご協力のおかげで、大きなトラブルなく終えることができました。一年生や保護者の方々にも楽しんでいただけたと思います。



ミニフェスティバル

今年も無事ミニフェスを行えました。たくさんの応募があるなかでオーディションを通し選び抜かれた3つのバンド。そして本番、時間はたった1時間半でしたが、演奏や司会者のトーク、すべての瞬間がそれまで出場者と司会者、そして生徒会で協力して準備してきた時間がつながっていることを実感し、今までに感じたことのないほど感動しました。

バンドでは2年連続出場で去年の経験を活かしさらなる進化を遂げた yao-yao。途中でボーカルを変えるという予想外の演出で観客を魅了した NEON。そしてコール&レスポンスによって多くの観客を巻き込み魅了し、盛り上がりを見せてくれた木工用バンド。どのグループもとても個性的でした。司会者のトーク力も抜群で時間の関係でかなり時間を巻いてもらうこともありましたが、臨機応変に対応していただいたおかげで盛り上がったのはもちろん、時間内に収めることができました！ 司会者も出場者のメンバーも明るく、面白く、そして協力的な人ばかりで今年のミニフェスを担当できて本当に良かったと思いました。またオーディションに応募していただいた、たくさんのグループの皆さんありがとうございました。改めてミニフェスに携わってくださった方々へ、深く感謝申し上げます！



オープニングプロジェクト

文化祭2日目を飾るオープニングプロジェクト、今年はルパン三世を題材として製作しました。

～あらすじ～

西高に眠ると噂の”西金剣(せいごんけん)”。その噂を聞きつけたルパン 79 世は、予告状を出し、お宝を手に入れようと企みます。しかし現れたのは、なんと偽物。ルパン 79 世、偽ルパン、そして西高生による西金剣を賭けた命がけの追走劇が始まります。

西高では伝統的にオープニングはセリフを用いずに舞台上でのキャスト達の演技、圧巻の大道具、映像演出によって作り出されます。大道具制作や映像作成に興味がある人、西高の文化祭に関わりたい人はぜひオープニングに参加してみてください。

～制作スケジュール～

12 月	オープニング団長選出
1 月	オープニング団長引き継ぎ・2 年生募集・1 年生募集・役職決め
2 月	シナリオ制作開始・大道具設計開始・劇練習
3 月	シナリオ制作完了・大道具設計図完成・小、大道具制作・撮影・編集・劇練習
春休み	小、大道具制作・撮影・編集・劇練習
4 月	大道具完成・編集・劇練習
文化祭1日目 終了後	アクリエひめじにてリハーサル・最終調整
文化祭2日目	本番ステージ

今年は文化祭テーマ「Auriwest」にならい、金をテーマに製作しました。シナリオから撮影、編集、大道具製作など大変な仕事がいくつも 있었습니다。限られた時間の中での製作はとても大変でしたし、大道具製作やリハーサルではトラブルも起きましたが、皆で協力し、満足できるものを作り上げることができました。本番では皆緊張していましたが、迫力のアクションと息のあった演技を見せ、最高のオープニングにすることができました。



学年劇

about—学年劇とは

姫路西高校の文化祭では、新3年生が2つの劇団に分かれてオリジナルの演劇を披露するのが伝統になっています。学年劇はテーマ決定から製作、細部の演出に至るまで生徒主体で進められる、文化祭の一大プロジェクトです。ここでは、第79回文化祭で結成された2つの劇団をご紹介します。

劇団『劇団ホームズ』（旧2年1組・2組・5組）

～演目『罪なき子』

一犯人はどうやって、いったいどこに。吹雪の夜、地元の大地主が何者かに刺された。閉ざされた屋敷、外界と断たれた空間—逃げ場はない。残されたのは、僅かな手掛かりと、曖昧な証言。吹き荒れる嵐の中、少しずつ浮かび上がる”違和感”何気ない一言、さりげない仕草、その全てが”伏線”になる。

劇団『劇団アカデミア』（旧2年3組・4組・6組・7組）

～演目『沈黙の解答用紙』

模試データ改竄事件発生。動機不明。証拠皆無。唯一の手掛かりは5人の「言葉」だけ。真犯人は誰なのか。退学をかけた話し合いが今、始まる！

staff—学年劇に携わる人たち

団長(1名)

劇団の責任者です。キャスト練習を進めたり、企画部と連携して準備の計画を立てたりと、劇団全体を見渡しメンバーを引っ張る立場です。リーダーシップや広い視野が求められます。

副団長(2または3名)

団長とともに劇団運営の中心となります。それぞれが企画部を分担して受け持つこともあります。

シナリオライター(1～3名程度)

劇の出来栄を決めるともいわれるシナリオを制作します。書いて終わりというわけではなく、本番直前までメンバーと話し合っ改訂を続け、演出にも関わる重要な役職です。

キャスト(15 名程度)

舞台で演じる人をいいます。セリフを覚えるという難しさもありますが、キャラクターになりきるために大きな努力を重ねます。

企画部(21 または 28 名)

各クラスから 7 名を選出し、大道具・小道具・衣装・化粧・音響・照明・会計の 7 種類に分かれます。予算や資材、時間が限られる中、完成度の高いものを創るため試行錯誤します。春休みから本番まで、役職によっては本番終了後も仕事があり決して楽ではありませんが、その分やりがいも大きなものです。

制作部(多数)

大道具・小道具・衣装の 3 種類があり、企画部の指揮のもとで実際の作業を行います。上記の役職に所属しない生徒は制作部になります。また、本番で舞台の転換作業にあたる黒子なども制作部の中から選ばれます。

schedule—第 79 回文化祭学年劇ができるまで

時期	内容
2025 年 11 月上旬	【役職決定】 団長をはじめ、劇団の中心となるメンバーをクラスで選出します。
12 月上旬	【シナリオ会開始】 団長・副団長・シナリオライターで構成される「シナリオ会」が始まります。時間をかけ、劇のテーマや方向性を話し合います。ここで決まった内容をもとに、冬休みにシナリオライターがシナリオを書き、何度も改訂が繰り返されます。シナリオの修正は本番直前まで続きます。
2026 年 1 月中旬	【キャストオーディション】 キャストをオーディションで決定します。シナリオ会のメンバーをはじめとする審査員が定めた基準をもとに、幅広い観点から審査します。
3 月上旬	【企画部活動開始】 大道具・音響・照明は会場スタッフの方との打ち合わせの都合上、早い段階から書類作成などの準備を行います。これら以外の担当も、製作の計画を立てるなど、春休みの作業に向けて

	準備を整えていきます。
3月中旬	【演技練習開始】 演技の練習が始まります。まずはゲームなどを通じて信頼関係を深め、それからセリフの練習、演技の細かな調整と順を追って進められます。プログラムを考え、練習をまとめるのもシナリオ会のメンバーをはじめとする生徒です。なお、外部の先生にお越しいただいてアドバイスをいただく機会が計5回あります。プロの的を射たご指摘によってシナリオが大きく変わることも少なくありません
春休み	【本格準備開始】 制作部も含め、すべての部門で準備が始まります。部活動をおろそかにしないため、準備や練習は原則として午前中に限られます。本番が日に日に迫る中、人材や知識をフル活用して全力で取り組みます。また、春休み中は会場であるアクリエひめじのスタッフの方との打ち合わせが2回あります。スタッフの方に演出の希望を伝え、確認や修正をしたり、助言をいただいたりします。
4月16日(木) (文化祭1日目)	【会場仕込み】 学校では文化祭1日目が行われている中、劇団メンバーはアクリエひめじ大ホールで大道具や音響・照明の調整、キャストの位置調整などを行います。劇団の持ち時間は1時間しかないので、団長の指揮のもとで手際よく作業が進められます。
4月17日(金) (文化祭2日目)	【本番】 アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、素早く舞台をセッティングします。そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長やシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたる準備や練習から現れたものといえるでしょう。40分間のストーリーが終了すれば、劇団メンバーがダンスをしたり、感謝の気持ちを込めて一礼したりと、思い思いのカーテンコールが繰り広げられます。緞帳が再び下りると、舞台裏は客席とはまた違った感動に包まれます。これを読んでいる在

校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいです。



劇団ホームズ



劇団アカデミア



文化祭における生徒会執行部の動き

文化祭は生徒会執行部が企画・運営をします。開催の約半年前、後期生徒会執行部発足と同時に文化祭に向けての準備が始まりました。生徒会役員の中で学年劇、学年展示、文化部展示、1日目オープニング、スピーチコンテスト、ミニフェスティバル、スタンプラリー、2日目オープニング、2日目エンディングという担当に分かれて、企画の運営準備を行いました。春休みに入るまでに行われた主な文化祭準備としては、ミニフェスのオーディション、スピーチコンテスト1次予選および2次予選実施、学年展示の内容決定などがありました。どれも生徒会執行部が中心となりながら、全校生徒や先生方と一丸となって準備、運営をしていきました。



↑ ロゴを制作している生徒会役員

春休みに入ると、役員は各々の仕事を行いながら、空いた時間を見つけてロゴのモニュメントの作成等、協力して準備を進めました。また、1日目オープニングや2日目エンディングで使用するための各部や団体の写真や動画の撮影も行いました。文化祭前日、4月15日には1日目に展示をする団体の準備やミニフェス、吹奏楽部のリハーサル、ロゴの取り付けをし、1日目のオープニングから開会式までのリハーサルを何度も繰り返しました。

そして文化祭1日目。生徒会役員は緞帳やスクリーンの開閉、体育館の照明、開会式の後のステージセッティングなど、それぞれの持ち場についてオープニングセレモニーを見守っていました。動画が流れた後にスクリーンがあがってロゴが登場し、体育館が拍手に包まれたときはとても感動しました。その後開会式、スピーチコンテストへと続けました。スピーチコンテストでは、生徒会役員も審査員として2名参加し、コンテスト終了後は他の審査員の先生方と会議を行い、受賞者を決定しました。スピーチコンテストの後、生徒会役員はミニフェスティバルの準備、観客の誘導等を行います。それと同時に、アクリエひめじでは2日目に向けた準備が進められていました。学校での学年展示、文化部展示が終了したら、校内に残っていた生徒会役員はアクリエひめじに集合し、日が暮れるまで2日目ステージ出演団体とともに翌日のリハーサルを行いました。

そうして迎えた文化祭2日目は、一般生徒の誘導からスタートしました。生徒が入場し終わった後はステージの時間管理、各団体の誘導など、スムーズな進行になるよう、それぞれが連携を取りながら仕事にあたりました。半年間かけてきた成果がやっと見られるという

思いで、生徒会役員は全員、ステージを楽しんでいたように思います。エンディングまで無事成功し、緞帳が下りていっているときの観客のみなさんからのあたたかい拍手で、半年間頑張ってきてよかったと感じました。



あとがき

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。第79回文化祭は、「Auriwest」というテーマ通り、金のように全員の個性が輝きを放ち、永遠に錆びることのないすばらしいものになりました。1日目、2日目の文化祭を舞台袖から見ていて、全てのプログラムにおいて、みなさんがいきいきと練習の成果を発揮されたり観客席から楽しんでおられたりする様子に感動しました。今回の文化祭は、79回生をはじめとする生徒のみなさん、数多のアドバイスをしてくださった先輩方、半年間共に準備に携わってくださった先生方、私たちが思い描くステージを実現するためご尽力いただいたアクリエひめじのスタッフの方々、限られた時間の中で最大限のご指導をくださった外部指導の先生方など、第79回文化祭を実施するにあたり携わっていただいたすべての方々のご協力があったからこそ大成功を収めることができました。みなさまに多大なる感謝を申し上げ、最後の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

制作者紹介(158代生徒会執行部)

表紙・あとがき	尾台莉都(文化委員長)
文化祭の概要	
プログラム内容	
準備について	
文化祭における生徒会執行部の動き	
1日目オープニング	石井悠太郎(1日目オープニング担当)
スピーチコンテスト	神代煌太(スピーチコンテスト担当)
文化部展示	津田匠(文化部展示・プログラム担当)
学年展示	中西まり(学年展示担当)
有志展示	福本悠来(新企画担当)
ミニフェスティバル	諫山大剛・大山禮(ミニフェスティバル担当)
スタンプラリー・エンディング	西牧優斗(スタンプラリー・エンディング担当)
オープニングプロジェクト	甲斐祥太郎(オープニングプロジェクト担当)
学年劇	西田真穂(学年劇担当)